

委託事業実施内容報告書

平成25年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【地域日本語教育実践プログラム(A)】

受託団体名 学校法人 南星学園 サイ・テク・カレッジ那覇

1. 事業名称 「沖縄県在住外国人のための日本語教育事業」

2. 事業の目的

沖縄に在住する外国人の視点に立って、日常生活の中で特に必要となる事柄について日本語をはじめ、文化・生活習慣について学習する場を設けた。また、地域住民との国際交流の場を提供し、異人種・異文化間の相互理解を深める活動を行った。沖縄県の実情に応じた日本語学習支援体制と日本語ボランティア活動のネットワークを整備した。

3. 事業内容の概要

本事業では、外国人と地域住民が共に安心して住みよい地域づくりを目指した。そのため、次の3つの取り組みを実施した。①日本語講座の基礎知識の習得に重点を置く。継続して受講するために実演・実習など取り入れ内容に工夫する。)②日本語教育を行う人材の養成(県全体に広範囲に募集を行い、地域ネットワークづくりの発端とする。)③日本語学習教材の作成(身近な生活に役立つこと。外国人が興味を抱く内容に工夫を行う。)特に、沖縄県在住する外国人の地域特性を把握し、実情に合った学習支援体制を行った。

4. 運営委員会の開催について

【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題	検討内容
1	平成25年7月25日 17:00~18:00	1時間	サイ・テク・カレッジ那覇	遠山英一、仲尾次嗣明、久貝美三郎、當山善堂、高柳清明、宮里新子、小波本あゆみ	①事業計画書の概要について ②運営委員会規約について ③実施計画について ④応募状況について	①~③の議題について事務局から説明があり、審議の結果、各議案とも事務局の原案通り全会一致で承認。④について事務局から説明があり、全会で情報を共有した。
2	平成25年10月25日 17:00~18:00	1時間	サイ・テク・カレッジ那覇	遠山英一、仲尾次嗣明、久貝美三郎、當山善堂、高柳清明、宮里新子、小波本あゆみ	①台風による「ボランティア育成講座」のスケジュール変更について ②講座の進捗状況について ③「日本語講座」の受講生募集の再度掲載について	①~③の議題の報告 ③について、受講生の出席率を向上するための解決策を検討し、再度広告掲載をすることを決定した。
3	平成25年7月25日 17:00~18:02	1時間	サイ・テク・カレッジ那覇	遠山英一、仲尾次嗣明、久貝美三郎、當山善堂、高柳清明、宮里新子、小波本あゆみ	①事業実施報告書について ②アンケートのまとめについて ③事業実施報告書提出について	①報告書の内容を運営委員に精査してもらい、承認を得た。 ②2つの講座のアンケートのまとめについて報告した。 ③報告書の提出については事務局が責任を持ってあたるということで承認を得た。

5. 日本語教室の実施

(1) 講座名称 「日常生活に役立つ身近な日本語講座」

(2) 目的・目標

日本の中でも特有の文化・生活習慣をもつ沖縄社会の中で、日常生活に役立つ日本語講座を実施した。日本語の基礎から応用まで無理なく日本語が身につく取り組みとした。外国人が日本語で行政サービスの問い合わせや地域住民とコミュニケーションが出来るレベルになることを目標とした。

(3) 対象者 沖縄県内に在住する外国人

(4) 開催時間数(回数) 42 時間 (全 14 回)

(5) 使用した教材・リソース 「みんなの日本語」「日本語おしゃべりのたね」「沖縄の方言」、その他

(6) 受講者の総数 16 人

(出身・国籍別内訳 フィリピン 8人、米国 5人、インドネシア 2人、スペイン 1人、)

(7) 日本語教室の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	授業概要	指導者名	講師又は補助者名
1	平成25年8月3日 9:00~12:00	3時間	サイ・テク・カレッジ那覇	13	米国(3人)、 フィリピン(7人)、 インドネシア(2人)、 スペイン(1人)	日本語の基礎	プリント教材によるひらがなとカタカナの練習 簡単なあいさつと自己紹介の仕方	宮里新子①	
2	平成25年8月10日 9:00~12:01	"	"	15	米国(5人)、 フィリピン(7人)、 インドネシア(2人)、 スペイン(1人)	日本語の基礎	プリント教材によるひらがなとカタカナの練習 家や学校に関する日本語や会話	瑞慶覧①	
3	平成25年8月17日 9:00~12:02	"	"	8	米国(3人)、 フィリピン(2人)、 インドネシア(2人)、 スペイン(1人)	沖縄の方言	沖縄方言の日常のあいさつの言葉 よく使われる沖縄方言の生活ことばを体験的に学習	瑞慶覧②	當山① 小波本①
4	平成25年8月24日 9:00~12:03	"	"	12	米国(4人)、 フィリピン(6人)、 インドネシア(2人)	日本語の基礎	プリント教材によるカタカナの練習 気持ちや状態に関する日本語や会話	瑞慶覧③	
5	平成25年9月7日 9:00~12:04	"	"	11	米国(3人)、 フィリピン(6人)、 インドネシア(2人)	日本語の基礎	プリント教材によるカタカナの練習 外食時の基本的な会話やメニューの日本語	瑞慶覧④	
6	平成25年9月14日 9:00~12:05	"	"	7	米国(3人)、 フィリピン(4人)	沖縄の文化と音楽	琉球三味線と琉球琴の奏者たちによる、琉球民謡の演奏と曲の解説を分かり易く説明	瑞慶覧⑤	當山② 小波本②
7	平成25年9月28日 9:00~12:06	"	"	5	米国(1人)、 フィリピン(2人)、 インドネシア(2人)	日本語の基礎	プリント教材によるカタカナの練習 こそあど言葉の使い方(1) いろいろな疑問文を作ってみる	瑞慶覧⑥	
8	平成25年10月12日 9:00~12:07	"	"	8	米国(3人)、 フィリピン(3人)、 インドネシア(2人)	日本語の基礎	プリント教材によるひらがなの練習 こそあど言葉の使い方(2) いろいろな疑問文を作ってみる	玉城①	
9	平成25年10月19日 9:00~12:08	"	"	8	米国(3人)、 フィリピン(5人)	音楽による日本語学習	「朝はどこから」の歌詞をもとに単語の学習や日本人の心について理解を図る	玉城③	宮里孝夫①
10	平成25年10月26日 9:00~12:09	"	"	8	米国(3人)、 フィリピン(5人)	沖縄の気候	沖縄特有の自然環境や気候風土について説明し、台風や自然災害に関する理解を深める。	玉城②	宮里孝夫②

11	平成25年11月2日 9:00～12:10	"	"	5	米国(1人)、 フィリピン(2人) インドネシア(2人)	医療や災害時に関するの日本語	病院において診察時の基本的会話、また台風時の警報や注意報、地震や津波の時のTV報道に関する日本語を学ぶ。	玉城③	宮里孝夫③
12	平成25年11月9日 9:00～12:11	"	"	4	米国(1人)、 フィリピン(1人) インドネシア(2人)	日本語の基礎	プリント教材によるひらがなの練習 スーパー等での基本的な会話や日用品に関する日本語	玉城④	
13	平成25年11月16日 9:00～12:12	"	"	4	米国(1人)、 フィリピン(1人) インドネシア(2人)	日本語の基礎	プリント教材によるひらがなの練習 いろいろな動詞を使って文を作ってみる(1)	宮里新子②	
14	平成25年11月30日 9:00～12:13	"	"	2	米国(1人)、 フィリピン(1人)	日本語の基礎	プリント教材によるひらがなの練習 いろいろな動詞を使って文を作ってみる(2)	宮里新子③	

(8) 受講者の募集方法

- ① 募集チラシ・ポスターを作成し、近隣市町村の国際交流団体等へ配布
- ② 那覇市役所住民課外国人登録係、宜野湾市役所市民課外国人登録係、北谷町役場住民課外国人登録係に講座開催の広報を依頼し、募集チラシ・ポスターを配布
- ③ 当校ホームページ掲載
- ④ 有料英字新聞へ広告掲載(Japan Update)

(9) 特徴的な授業風景(2～3回分)

○ 8月17日(第3回) テーマ:沖縄の方言

沖縄県において、方言は日常生活の中で頻繁に使われており、生活の中に溶け込んでいる。昔ながらの純粋な方言は現代風に変化してきているが、本土で使われている共通語とはかなり違っている。そのような身近な方言を分かり易く説明し、実際に地域の人々と会話をする時に使ってもらおうと練習させた。「はいさい(こんにちは)」や「めんそーれ(いらっしゃい)」等のあいさつや「ちばりよー(頑張れ)」や「かりー(乾杯)」等のよく使われるフレーズを中心に、外国人にも覚えやすく、話しやすい方言を伝授した。受講生も耳にしたことのある言葉もあったようで、どのような場面でどのように使えばいいのか等の質問があったりと、大きな関心を持って学んでいた。



○ 9月14日(第6回) テーマ:沖縄の文化と音楽

三線と琉球民謡、琉球舞踊を見学・体験してもらおうと企画した。講師を務める當山善堂氏は三線の名手であり、知人の琉球舞踊の先生や琉球琴の演奏家を伴い、素晴らしいパフォーマンスを見せてくれた。主に、出身である八重山芸能の唄や踊りを披露したが、方言での歌詞を日本語に、さらに通訳によって英語に訳し説明を行ったので、より深く唄の内容を理解し、踊りを観賞することができたのではないかと。学習者も実際に三線を引いてみたり、一緒に「カチャーシー(沖縄の代表的な祝いの踊り)」を踊り、沖縄の文化を体感していた。



(10) 目標の達成状況・成果

当初の学習者の日本語のレベルは、受講生のほとんどが日本語講座を受けるのは初めてという初心者だったため、講師には受講生のレベルにあわせて授業内容を調整してもらった。

全くの初心者もいれば、会話は可能だが読み書きはできないという人まで差がかなりあり、講師を悩ますこともあった。しかし、講座の前半に日本語の基礎学習を多く行うことでレベルの差を少なくした。

また、日本語講師だけでなく、有識者による講義やパフォーマンスなど、多くのサポートによる授業を行ったことにより、学習者の理解度や習得度がかなり上がった。

(11) 改善点について

今回の実施においては、受講者の出席率の定着が大きな課題となった。応募状況は16人の応募があり良好であったが、講座の後半にフィリピンの大型台風による被害の救済のためフィリピン出身の米国軍人受講生のほとんどがボランティアとして派遣され出席者が減少した。事務局も他の受講生に出席を促すメールをしたり、二次募集の広告を出したりと対応に苦慮した。今回は突発的な事由による出席率低迷だったが、次回の実施にむけて対策を考える必要がある。

6. 日本語教育を行う人材の養成・研修の実施

(1) 講座名称「外国人のための日本語指導ボランティア育成講座」

(2) 目的・目標

外国人と地域住民との交流を促進するため、日本語指導ボランティアを育成した。在住する外国人へ地域の日本語ボランティアが積極的に関わり合えるように取り組んだ。また、ボランティア間のネットワークを構築し、継続した支援体制を整備した。

(3) 対象者 「日本語教育・ボランティア活動に関心のある人」

(4) 開催時間数(回数) 30 時間 (全 10 回)

(5) 使用した教材・リソース 「各講師作成の教材」

(6) 受講者の総数 20 人

(出身・国籍別内訳 日本人 20人)

(7) 養成・研修の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	授業概要	講師	講師
1	平成25年10月12日 9:00~12:00	3時間	サイ・テク・カレッジ那覇	16	日本人 (16人)	日本語とは	自分の日本語をふり返る (沖縄地域共通語)	元山①	
2	平成25年10月19日 9:00~12:01	"	"	16	日本人 (16人)	日本語教育について①	日本語ボランティアの役割 と日本語指導	高橋①	

3	平成25年10月26日 9:00～12:02	"	"	16	日本人 (16人)	文法①	外国語としての日本語を知る①動詞	高橋②	
4	平成25年11月2日 9:00～12:03	"	"	17	日本人 (17人)	異文化理解	異文化理解・多文化共生社会について	元山②	伊佐
5	平成25年11月9日 9:00～12:04	"	"	16	日本人 (16人)	文法②	外国語としての日本語を知る②形容詞 外国人との交流	元山③	高柳
6	平成25年11月16日 9:00～12:05	"	"	16	日本人 (16人)	文法③	外国語としての日本語を知る③助詞 外国人との交流	元山④	
7	平成25年11月30日 9:00～12:06	"	"	13	日本人 (13人)	文法④	外国語としての日本語を知る④こそあど、待遇表現	元山⑤	
8	平成25年12月7日 9:00～12:07	"	"	13	日本人 (13人)	文法⑤	外国語としての日本語を知る⑤音声と表記	元山⑥	
9	平成25年12月14日 9:00～12:08	"	"	14	日本人 (14人)	活動について	日本語教室の現状とボランティアの心構え まとめ	元山⑦	
10	平成25年12月21日 9:00～12:09	"	"	13	日本人 (13人)	日本語教育について②	「生活者としての外国人」のための日本語教育について	高橋③	

(8) 受講者の募集方法

・ポスター・チラシ配布 ・サイ・テク・カレッジ那覇HP掲載 ・新聞広告掲載(有料1回・無料1回)

(9) 特徴的な授業風景(2～3回分)

○ 10月19日(第2回) テーマ:日本語ボランティアの役割と日本語指導

日本に在住する外国人がなぜ日本で生活しているかというテーマのマンガをテキストに、外国人のバックグラウンドにはいろいろな事由があることを説明した。(例えば中国からの残留孤児とその家族、日系移民の子弟で引揚者であるとか。)米軍基地の関係者が多数を占める沖縄だが、その他の国々からの外国人についても彼らのバックグラウンドを理解をすることが大切だということを学んだ。

また、講師がスペイン語で日本語を教える授業を行い、自分が外国人の立場になって理解できない言葉で授業を受ける体験をした。共通の言語がない状況でいかにコミュニケーションを図り、分かりやすく説明するためにはどうすればよいかを考えた。

○ 10月26日(第3回) テーマ:外国語としての日本語を知る

ある一つのゲームについて、グループ別にそれぞれ少しずつ異なったルールを教えた。それから、異なるルールを持ったメンバーで新しいグループを作り、言葉を使ってはいけないという条件でゲームを行った。在住外国人の生活、つまり意思の疎通が難しい状況で違うルールの下、何かを行うということがどれだけストレスフルなものかを体験した。受講生からは「意味が分からず混乱した」「ことばが分からない、通じない事でどんな感情になるのかを実感した」「もっと外国人の立場に立って、考えることができるようにしたい」等の感想が寄せられた。



(10) 目標の達成状況・成果

今回の講座は前年度と比較して開催時間数が2倍の10回(30時間)となったことで、より多くのテーマを基に各講師が多彩な授業を展開し、受講者の認識度や理解度を高めることとなった。講座の内容も教材を読むだけでなく、ロールプレイングやゲームを通し、実際に外国人の立場や状況を体験することによって、彼らのニーズに気付くことができ、効果的な教え方を考えるヒントとなった。受講者の中には日本語教育に興味を持ち、以前に他所での講座を受講したことがある方もおり、アンケートの回答からも、これからボランティア活動をするためのより実践的な技術やノウハウを身に付けることが出来たという意見が見られ、人材育成という目標に沿うことができたのではないかな。

(11) 改善点について

今回の講座は前年度と比較して開催時間数が2倍の10回(30時間)となったことで、より多くのテーマを基に各講師が多彩な授業を展開し、受講者の認識度や理解度を高めることとなった。講座の内容も教材を読むだけでなく、ロールプレイングやゲームを通し、実際に外国人の立場や状況を体験することによって、彼らのニーズに気付くことができ、効果的な教え方を考えるヒントとなった。受講者の中には日本語教育に興味を持ち、以前に他所での講座を受講したことがある方もおり、アンケートの回答からも、これからボランティア活動をするためのより実践的な技術やノウハウを身に付けることが出来たという意見が見られ、人材育成という目標に沿うことができたのではないかな。

7. 日本語教育のための学習教材の作成

(1) 教材名称 「外国人が役立つやさしい日本語教材」

(2) 対象 「受講者用教材で、日常生活に必要な日本語がある程度理解できるレベルで、読み書きは困難な人が対象。」

(3) 目的・目標

沖縄に在住する外国人が日常生活に役立つやさしい日本語教材を作成する。日本語の基礎から応用まで無理なく日本語が身につく内容とする。外国人が日本語で行政サービスの問い合わせや地域住民とコミュニケーションが出来るレベルになるまでの教材を目標とする。コーディネーターを中心に行政・自治会との連絡調整を行い時宜に適した教材の作成を行う。

(4) 構成・総ページ数

①カタカナ練習 ②日常会話練習 ③歌って日本語を学ぶ ④沖縄の方言を学ぶ (全134ページ)

(5) 教材作成会議の開催について

【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題	検討内容
1	平成25年8月1日 17:00～18:00	1時間	サイ・テク・カレッジ那覇	宮里 孝夫 瑞慶覧 やよい 玉城 あゆみ 仲栄真 綾乃 仲尾次 嗣明 小波本 あゆみ	①教材作成のスケジュール立て ②教材内容の選定 ③想定時間の確認	・業務計画を基に教材作成のスケジュールを立てた。 ・瑞慶覧先生や玉城先生の意見や、去年作成したテキストを基に、今年のテキストの内容や日本語のレベルについて話し合った。 ・授業時間数を基に、テキストの内容別のページ数を検討した。
2	平成25年8月8日 17:00～18:00	1時間	サイ・テク・カレッジ那覇	宮里 孝夫 瑞慶覧 やよい 玉城 あゆみ 仲栄真 綾乃 仲尾次 嗣明 小波本 あゆみ	①教材の具体的な内容について ②授業の指導内容と進行について	・前回のテキストはひらがなを中心にまとめたので、今年はカタカナに重点をおいた内容にすることを決定した。それに伴い、細かい内容を策定した。 ・この教材内容をもとに、どのように授業を進め、指導を行うかを検討した。

3	平成25年8月15日 17:00～18:00	1時間	サイ・テク・カレッジ那覇	宮里 孝夫 瑞慶覧 やよい 玉城 あゆみ 仲栄真 綾乃 仲尾次 嗣明 小波本 あゆみ	①教材の具体的な内容について	・昨年の受講生の様子や授業の進行状況を参考に、教材内容を細かく選定していった。 ・初心者が取り組みやすい内容はもちろんだが、その上のレベルの受講生を想定した内容も織り込むことによって、授業への定着率を増やすことも検討した。
4	平成25年11月7日 17:00～18:00	1時間	サイ・テク・カレッジ那覇	宮里 孝夫 瑞慶覧 やよい 玉城 あゆみ 仲栄真 綾乃 仲尾次 嗣明 小波本 あゆみ	①原稿執筆の進捗状況の報告	・それぞれの原稿執筆の進捗状況を報告をした。
5	平成26年2月13日 17:00～18:00	1時間	サイ・テク・カレッジ那覇	宮里 孝夫 瑞慶覧 やよい 玉城 あゆみ 仲栄真 綾乃 仲尾次 嗣明 小波本 あゆみ	①教材内容全体の最終チェック ②教材作成後の有効利用の方法と配布先案について	・執筆された原稿の誤字脱字のチェック・校正を行い、教材全体をまとめた。 ・教材(テキスト)を作成した後、それを誰に、どこで、どのように利用してもらうのかを検討した。

(6) 使い方

日本語学習の初心者のためのテキストとして、ひらがな、カタカナの練習から始め、日常生活に必要な題材をテーマに多くの例文をあげ、いろいろな状況で使える日本語を学習できる。

(7) 具体的な活用例

いろいろな場面別に会話や単語を学べるようになっており、さらに沖縄に実在する地名や場所名を使用しているので、沖縄在住の外国人にとって、大変実用的な日本語学習教材として活用できる。

(8) 成果物の添付 DVDにて添付

8. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的

沖縄に在住する外国人の視点に立って、日常生活の中で特に必要となる事柄について日本語をはじめ、文化・生活習慣について学習する場を設けた。また、地域住民との国際交流の場を提供し、異人種・異文化間の相互理解を深める活動を行った。沖縄県の実情に応じた日本語学習支援体制と日本語ボランティア活動のネットワークを整備した。

(2) 目標の達成状況・事業の成果

① 「日常生活に役立つ身近な日本語講座」ということで、基本的なカタカナの練習を始めとし、沖縄県内に実在する場所名や地域独特の文化を題材に、単語の説明や会話文を組み立てており、県内在住の外国人が日常生活を送るうえですぐに使える日本語を学習できる内容を教えることができた。受講者の反応も、「聞いたことがある単語(地名や方言等)がよく出てくるので、楽しい。」「クラスで習った日本語を友人に使ってみたら通じた。」等の反応があり、本プログラムの目的である「沖縄県の実情に応じた日本語学習」を支援することができたのではないかと評価した。

② 今回、2回目の実施となった「日本語指導ボランティア育成講座」であったが、予想以上に応募者がおり、事務局は嬉しい悲鳴をあげた。そのため受講者数を15名と設定していたところを20名受け入れて開講した。受講者はそれぞれ、ボランティア活動や日本語教育に強い関心を持つ方々で、授業に対するモチベーションも高く、講師陣もやりがいを感じたとのことであった。講座の内容も文法の説明の仕方などの技術的なことだけではなく、日本語指導ボランティアの性質や背景、日本語教室の現状の把握、ゲームやロールプレイングを数多く行った。また、日本語講座の外国人受講生たちと実際に授業を行いボランティアとしての仕事を体感する等の活動を通してよりよい指導方法を考えさせるなど、多岐にわたり充実したものとなった。

③日本語学習教材作成にあたっては、在住外国人が日常生活に必要な日本語を学べるよう生活に則したテーマの下、沖縄独特の地域性を重視し、特産物や料理、地元の交通機関や建築物、観光地の名称をたくさん取り入れた内容とした。また、簡単な沖縄の方言を教えることによって、より一層「沖縄らしさ」が溢れた教材となり、本事業の目的の一つでもある「異人種・異文化間の相互理解を深める」ために役に立つものとなるであろう。この教材を片手にすぐ街に出かけても、日本語で会話を試すことができるものとなったと思う。

(3) 標準的なカリキュラム案の地域での活用について

「日本語指導ボランティア育成講座」の受講生にサンプルとしていくつかのカリキュラム案を提示し、授業プログラム作成や授業方法等を指導した。よって、今後、受講者たちが実際にボランティアとしてそれぞれの地域で活動する際に、授業で使ったカリキュラム案を参考として役立て、日本語の指導や日常生活面でのアドバイスができると考えられる。

(4) 地域の関係者との連携による効果、成果 等

今年度の事業実施にあたり、「財団法人 沖縄県国際交流・人材育成財団」から運営委員として参加して頂き、いろいろ情報交換をする機会を得た。財団の国際交流課でも在住外国人の支援として日本語の読み書き教室や弁論大会などを開催しており、それらの活動を通しての上手くいった事例、いかなかった事例、問題点や成果、実施の方法、ボランティアのあり方や活用の仕方などについて参考となる意見をたくさん聞くことができた。また、こちらからとしてはボランティアの育成と人材の紹介など協力体制を取ることを申し出た。今後も連絡を密に取り合いながら、地域に密着した事業実施を計画したり、地域の実情に応じた支援体制を整えていきたい。

(5) 改善点、今後の課題について

今回、3つの取組を通して意識したのは、「沖縄県特有の文化・生活習慣に沿った内容とする」ということであった。それは本事業の目指した「外国人と地域住民が共に安心して住みよい地域づくり」ため、在住外国人たちが沖縄で生活する中で少しでも不便なことや困難なことを軽減でき、暮らしやすくなるよう支援するためであった。講座実施や教材作成を通してそれらの目的は果たすことができた、今後の課題として、もっとたくさんの県民に自分たちの地域に暮らす外国人の方に対する理解を深め、多文化共生のまちづくりに関心を持ってもらうために情報を発信していくことを考えたい。例えば、日本語講座の受講生をボランティア講座の受講生と交流させるだけでなく、本校近隣の公民館や学童を利用している人々との交流を図るなど活動範囲を広げていきたい。また、今回の日本語講座において出席率の定着が難しかったが、受講者へのこまめな呼びかけやさらなる内容の充実などを図り、改善されるよう努めたい。

(6) その他参考資料

○「日常生活に役立つ身近な日本語講座」アンケート集計

○「日本語指導ボランティア育成講座」アンケート集計

○「日本語講座ルール」・「台風時の注意事項」(受講生への配布資料)

文化庁委託

平成 25 年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

「日常生活に役立つ身近な日本語講座」アンケート集計

★ 11月9日実施 4名回答 ※複数回答あり

1. 受講の動機は何ですか。※

- ☐ 日本語会話を学びたい (4名)
- ☐ 地域住民とのコミュニケーションの取り方を学びたい (4名)
- ☐ 医療機関においてや災害時の会話を学びたい (1名)

2. 講座はあなたの目的に適していましたか。

- ☐ はい (4名)
- ☐ いいえ (0名)

3. 受講して最も学べたことは何ですか。※

- ☐ ひらがな・カタカナ (3名)
- ☐ 文法の基礎 (1名)
- ☐ 日常会話 (4名)
- ☐ 特別な場面での会話 (4名)

4. 面白かったトピックは何でしたか。※

- ☐ ひらがな・カタカナ (1名)
- ☐ 文法 (0名)
- ☐ 日常会話 (4名)
- ☐ 沖縄の方言 (3名)
- ☐ 沖縄の文化と音楽 (2名)
- ☐ 日本の童謡 (1名)
- ☐ 沖縄の気候 (1名)
- ☐ 医療・災害時の会話 (1名)

5. 講座に対する提案や要望

- ☐ もっと日常会話を増やす (2名)
- ☐ もっと文法を学びたい (1名)
- ☐ もっと学術的な内容を学びたい (0名)
- ☐ もっと沖縄の歴史・文化・自然について学びたい (3名)
- ☐ その他 (・中級、上級と続けて講座をしてほしい。
・会話の練習を増やしてほしい。)

6. 日本語の進捗状況は

- ☐ 満足 (2名)
- ☐ まあまあ (2名)
- ☐ 不満足 (0名)

7. 授業で学んだ日本語を実際に使う機会がありましたか。

- ・ 職場の同僚と使ってみたら通じたのでうれしかった。
- ・ あまり周りに日本人がいないのでチャンスがない。
- ・ ボランティア講座との授業の時、日本語で会話のできたのでよかった。
- ・ 日本人の友人に（日本語学習を）手伝ってもらっている。

8. 講座全体の評価

- ☐ 大変良い (2名)
- ☐ 良い (2名)
- ☐ まあまあ (0名)
- ☐ 悪い (0名)

9. コメント等

- ・ まだまだ日本語が上手ではないので、続けて受講したい。
- ・ もっと講座を続けて欲しい。
- ・ 職場の日本人の同僚と話せるようになるまで受けたかった。
- ・ このような機会を与えてくれてありがとう。

文化庁委託
平成 25 年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
日本語教育を行う人材の養成・研修の実施

「日本語指導ボランティア育成講座」アンケート集計

★ 12月21日実施 13名回答 ※複数回答あり

1. 受講の動機は何ですか。※

- ☐ 「日本語ボランティア」について関心があった。 (10名)
- ☐ テーマ・トピックに関心があった。 (7名)
- ☐ ボランティア活動全般に関心があった。 (9名)
- ☐ 講師・知人からの勧め (2名)

2. 講座はあなたの目的に沿っていましたか。

- ☐ はい (13名)
- ☐ いいえ (0名)

3. 感想・要望等

・日本語ボランティアの活動の深さを感じ、学習者の背景にあるいろいろな出来事、周囲の人々との関わりなどを含めての気づき、アドバイスなどが必要だということが分かった。自分自身も常に勉強をしていかなければならないと感じた。

・先生方の分かりやすい授業のおかげで、違う言語を使っている人たちにどうやったら分かり易く伝えられるかを考えさせられた。相手がすでに持っている知識や経験を使って教えることの大切さを授業の疑似体験を通して実感した。

・私たち指導する側が色々な知識や経験を詰め込むのではなく、学習者に実際に体験してもらうことが大事だと学んだ。体験することで不安や疑問を1つ1つ解決していける。この講座を受講して、日本語だけでなく学習者についても学ぶことができてよかった。

- ・学習者の実態と課題を把握し、ニーズに合った支援の仕方を学びましたが、実際にプログラムを作成してみると難しい。「日本語」を通して、何ができるか、何をして欲しいのか考えさせられました。
- ・自分の企画する講座の参考にと受講しましたが、とても勉強になりました。これから地域に帰って学んだことを少しずつ還元できればと感じています。
- ・支援者として何が出来るのか、相手の立場になって考えて工夫していかないといけないと思いました。在住外国人にとってのハンディは沢山あり、不安も多いと思うが、少しでも手助けが出来ればいいなと思います。
- ・今回、受講して、相手のレディネスとニーズの把握が大切だと分かりました。また、自分一人ではなくいろいろなネットワークを利用することも、日本語教育を受ける人の理解を深め、意欲を高めることにつながると気付かされました。
- ・10回の学びは日本語指導ボランティアへの関心を一層深めてくれた。とても楽しく学べたし、講師の先生方は本当に楽しく実践的に指導してくださいました。ありがとうございました。
- ・具体的に活動のイメージを持って内容を考えるという学習はとても役に立った。外国人のニーズをかみ砕いて、楽しく分かり易く理解させられるようにしたい。講座で学んだことを是非、活かしていきたいと思います。とても充実して内容の濃い講座でした。
- ・自分一人だけだと偏った考えになりがちですが、グループで話し合いながら学習することで、いろいろな意見が聞け、とても参考になりました。実際に外国人と関われるよう、情報を集めていこうと思います。
- ・知識を学ぶだけでなく、具体的に行動に落とし込む作業ができてよかった。外国人学習者の状況把握、地域の状況把握のためには、自分自身のネットワーク作りも大切になると思う。「教えるためには自分自身が深く学ぶこと」を実感した日々でした。毎回の資料の素晴らしさ、授業の進め方もとても参考になりました。

General Information

August 3, 2013
Sci.Tech.College Naha

Dear Participants,

We would like to provide you with some information relating this class.

- Our parking space might not be sufficient enough for your cars to park. First come, first served.
- This Japanese class starts at 9:00 and ends at 11:50. Each class lasts 50 minutes with 10 minute break.
- In this class, we are going to offer basic Japanese practices using variety of topics related to Okinawan Culture.
- The class schedule is subjected to change.

Please let us know if you need more information about the class :)

Staff : Shimei Nakaoji

Ayumi Kohamoto

Notice

たいふう きゅうこう
台風による休講について

Cancellation of the class due to typhoon (Taifuu).

1. 朝7時の時点で、^{きょうふうちゅういほう}強風 ^{こんでいしょん}注意報 や ^{ちゅういほう}コンディション2の注意報、または、^{ぼうふうけいほう}暴風 警報 や ^{こんでいしょん}コンディション1の ^{けいほう}警報 が ^{はつれい}発令 された場合や ^{ばあい}バス が ^{うんきゅう}運休 になった場合、^{ばあい}授業 は ^{じゅぎょう}休み になります。

In case ^{きょうふうちゅういほう}強風注意報 (Condition 2) or ^{ぼうふうけいほう}暴風警報 (Condition 1)

are issued at the time of 7:00a.m., the class will be cancelled.

^{おきなわ}沖縄 の ^{てれび}テレビ番組 (NHK) や ^{ばんぐみ}かでの ^{きち}基地の HP を ^{みて}よく見て、^{さいしん}最新 の ^{じょうほう}情報 を ^{える}得るようにしてください。

Please watch Okinawa local TV (NHK) or check Military

Weather forecast carefully for the latest information.

Kadena Weather → <http://weather.kadenaforcesupport.com/update/tccor.htm>

^{きょうりよく}
ご協力ありがとうございます。

Thank you for your cooperation.

さい てく かれっじ なは
サイ・テク・カレッジ那覇